

史跡めぐり

坂口平三郎顕彰碑(土生町)



坂口平三郎

神須屋バス停から少し山手側、岸和田港塔原線に面して一つの石碑があります。泉州名産のタマネギ栽培を始めた坂口平三郎を顕彰するために昭和7年に土生郷村によって立てられたものです。彼は泉南郡の勤業委員として、自ら農業試験場を設けて農作物栽培の研究をしていました。明治12年頃、神戸の西洋料理店でビーフステーキに添えられたタマネギを初めて食し、これは必ず日本人にも受け入れられると確信しました。そこでアメリカ人からタマネギを譲り受け、その栽培を始めました。平三郎は明治30年に37歳の若さで他界しますが、その遺志は多くの人に受け継がれ、やがてタマネギは泉州を代表する名産品となりました。

郷土資料館の資料から

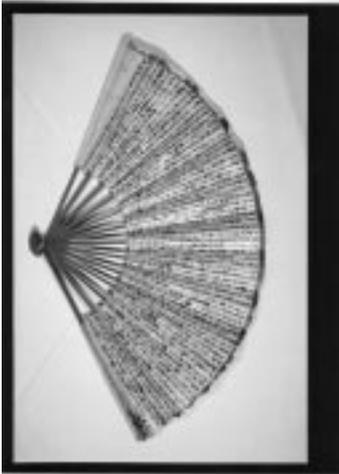
岸和田藩明細書扇



タマネギの碑

江戸時代、幕府は全国各地で不正がないか監督するために、將軍の代替りごとに役人を派遣しました。これを巡検使と言います。今でいえば監査委員です。巡検使を迎える藩などでは、周到に準備し、巡検使が通る道路を清掃したり、巡検使を案内する村役人には、質問された場合の模範回答を予め与えて、藩にとって不都合なことを言わないように気を使っていました。この扇は天保9(1838)年の巡検の際に春木村の庄屋が使用したもので、藩から与えられた模範回答が細かい字で書かれています。たとえば、殿様の日常生活 学問や武芸を熱心にされている、殿様の家族構成、藩士や領民の人数、藩内の特

産品や史跡名所等々…いわば、この扇子はカンニングペーパーです。このような次第ですから、巡検の実効性は？ですね。しかし、現代の私たちが当時の藩の状況を知る上では大変貴重な資



岸和田藩明細書扇

料と言えます。

(山中吾郎 郷土資料館学芸員)

[from M]編集部スタッフの横顔 part.3

[fromM]編集部スタッフの自己紹介の最終回です。今回は、自然資料館スタッフの自己紹介の続きです。

村上健太郎 (きしわだ自然資料館)

人間が今ほど隆盛でなかった時代、日本の平地にも多くの森林があったはずですが、そうした森は、山林と連なっていて、今では考えられないほどの多様な生きものであふれていたことでしょう。そうした平地の森の姿は、今の都市を見ると、ほとんど想像もできませんが、保存の良いお寺や神社の

森では、ときにかつての豊かな自然の痕跡を見ることができます。村上が研究しているのは、このような街中に残された森(孤立林)の植物の多様性です。

自然資料館では、非常勤学芸員として、昨年度よりお世話になっております。資料館での担当は植物ということになっておりますが、専門は景観生態学、緑地保全学です。植物や生物多様性保全、環境保全の視点からのアドバイスができればと考えております。

これまでは、樹木やシダ植物を中心に研究してきました。その他の草本植物も修行中で、少しずつですが、覚えていきます。何とかがんばって、岸和田で見られる高等植物をすべて同定できるくらいになりたいですネ。

また、自然資料館のホームページや[FromM]、自然資料館会報の「はっぱ通信」などは村上が直接の編集担当ですので、ご質問があれば、ぜひ村上へお願いします。字が小さい、誤字脱字、間違ったこと書いてるぞ・・・などのご批判も村上(knature2@sensyu.ne.jp)まで、遠慮なくどうぞ。

平田慎一郎 (きしわだ自然資料館)

自然資料館で昆虫類・クモ類担当のアドバイザーをしています。アドバイザーといっても単なるバイト君で、本来の身分は、大阪府立大学農学部応用昆虫学研究室研究生です。専門は昆虫生態学で、「カマキリモドキ」という昆虫の生活史戦略が主な研究テーマです。動物全般に関心がありますが、どちらかというとかエルやカマキリのような、捕食性動物に興味を持っています。これまでそれほど多くの種類を扱ってこなかったため、昆虫の名前は何でもすぐにわかるというわけではありません。一方、野外調査や飼育実験などの手法については、それなりにアドバイスできることもあると思います。また、名前でもクモについては、普通の虫好きの人よりは詳しいかもしれません。昆虫やクモのことで疑問があったらどんどんお寄せ下さい。



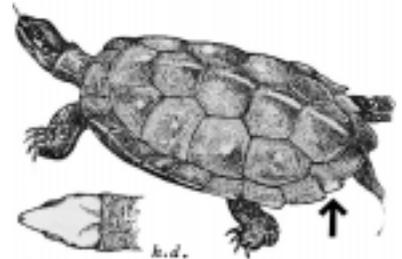
キカマキリモドキ

岸和田のカメたち

両生爬虫類嫌いの人でも、カメだけは例外のようだ。顔がヘビに似ていても、甲と手足があるため、愛嬌があるように見えるのだろう。現在、岸和田に生息するカメは次の4種で、種類が少ない上に識別も簡単なので、総合学習に使いやすい題材である。校区内の「カメ生息マップ」や、池や川のカメ調査をしたら興味深い結果が出るだろう。調査方法や詳細を知りたい方は、自然資料館の「西中」まで連絡を。

1. ニホンイシガメ（バタゲールガメ科）・日本固有種

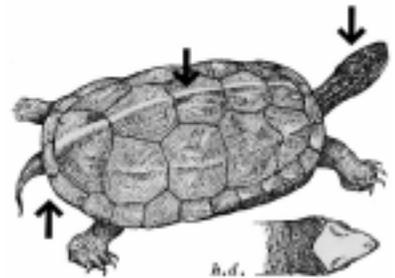
本州・四国・九州に分布。甲長（甲羅の長さ）20cm程度。甲羅の上面は茶～黄土色、腹の部分の甲羅は黒、甲羅の後半部分にノコギリ状のぎざぎざがある。首や顔に模様はなく、全体に平べったい。津田川や牛滝川の上流～外環状線付近や、山間部や丘陵地にあるため池がおもな生息場所。岸和田城堀を生息場所に行っているものもいるが、市街地で発見されるのは、飼育されたものが放された可能性もある。魚・エビなどの肉類のほかに水草も食べる雑食性。ペットショップで「ゼニガメ」として販売されている。



ニホンイシガメ

2. クサガメ（バタゲールガメ科）・くさいにおいを出すからクサガメ（本当）

本州・四国・九州と、中国東部・台湾・朝鮮半島に生息。甲長最大30cm程度で全体に黒い。なめらかな丸形の甲羅と、その上にある3本の隆起線（キール）が特徴。首や顔には黄色の線模様があるが、年とった大型のオスにはないことが多い。ため池や水田、流れの少ない河川の中～下流に生息し、暖かい日には、池や川の縁で甲羅干しをしているのを見かける。市街地でも見つかるが、最近ミシシippアカミミガメに押され気味。これも雑食性である。



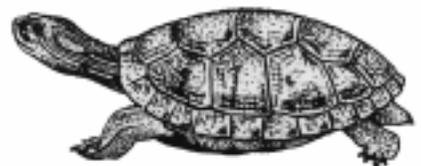
クサガメ

3. ミシシippアカミミガメ（ヌマガメ科）・商品名「ミドリガメ」・市街地で大繁殖

北アメリカ原産で、1970年代ごろからペットとして輸入されたものが捨てられて野生化した。甲長が40cm以上になるものも多く、全体は緑色で甲羅に黄色の模様がある。目の後ろに赤い斑があるのが特徴だが、成長したものはこれが消える。雑食性だが、若いころは肉食の傾向が強く、腐肉も食べる。岸和田の市街地に多く生息し、これが侵入したことによって、日本に前からいたカメは目立たなくなってしまった。総合学習では、カメ全体数のうち、このカメが占める割合を出すと、校区内における環境の現状が分かるかもしれない。

4. ニホンスッポン（スッポン科）・春木川で採集したことがあるが、採集には充分注意すること

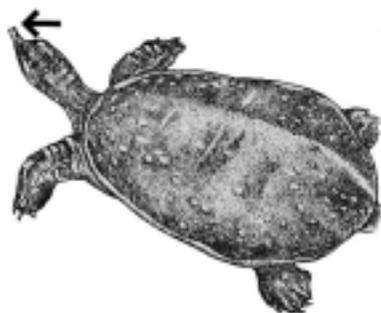
4種のなかでこれが一番姿をあらわさない。砂の中にもぐるのを好む。川の中流や、丘陵地にあるため池がす



ミシシippアカミミガメ

みか。甲羅は軟らかく、頭部の先はとがっている。他に似たものがないので、間違えることはない。肉食性で、カニや貝が好物。これを見つけたら、生きたまま自然資料館まで持ってきて欲しいが、噛むとかなり痛いので、注意が必要。市街地に生息する個体は、もと飼育個体の可能性もある。最後に、この調査は11月～3月にはできにくいので、あしからず。

(西中美穂 自然資料館学芸員)



ニホンスッポン

INFORMATION

郷土資料館の催し案内

秋季特別展 「新島襄と山岡家の人々」

明治11年7月、元岸和田藩主岡部長職の依頼を受けて、新島襄が岸和田へキリスト教を広めるために訪れました。尹方は、元岸和田藩の上級家臣で、維新後、岸和田煉瓦株式会社を起こすなど実業家としても活躍しました。やがて熱心なキリスト教信者となり、岸和田教会を設立しました。彼の長男邦三郎は同志社卒業後牧師として各地に伝道し、邦三郎の妻春は、キリスト教精神に基づき女性解放運動のリーダーとして活躍しました。

本展は、岸和田で新島の活動を支援した山岡尹方とその家族の活動を、山岡家に伝わる資料を中心に紹介します。新発見の新島襄書簡も初公開します。

【会期】平成13年10月6日(土)-11月25日(日)

【会場】岸和田城天守閣1階展示室

10月2日(火)～6日(土)は展示準備のため、休館となりますので、ご注意ください。

お願い [from M]は、学校教職員に1部ずつお配りください。担当の方はお忙しいところ申し訳ございませんが、よろしくお願ひ申し上げます。

【from M】では、みなさまのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしております。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、投稿文の方も受け付けております。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、下記のところまでお送りください。電子メールでも受け付けております。なお【from M】はホームページ上でもご覧になることができます。ぜひご利用ください。

自然資料館のイベント情報

秋季特別展 「まちの自然誌」

まちというのは、ほとんどが人間のために作られた空間ですが、そんなところにも、自然は息づいています。道ばたでよく見かけるこの植物は何だろう？家の中によく出るこの虫は何だろう？外来生物ってどこからどうやって来るの？最近よく耳にするピオトープって何だろう？どうして街中には同じ種類の生きものばかりが多いの？みなさんのそんな疑問にお答えします。

今回は岸和田市内でも海側の都市部に見られる自然を取り上げ、その有様や問題点について展示します。この機会にぜひ、みなさんにとって、最も身近な、まちの自然環境について考えてみてください。

【会期】平成13年10月23日(火)-12月24日(月)

【会場】きしわだ自然資料館1階ホール

10月20日(土)、21日(日)は展示準備のため、休館となりますので、ご注意ください。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町6-5

きしわだ自然資料館

TEL (0724)23-8100 FAX (0724)23-8101

Email: knature2@sensyu.ne.jp

k-nature@sensyu.ne.jp

自然資料館ホームページURL:

<http://www.sensyu.ne.jp/k-nature/>

index.html (Yahoo Japanの検索で「きしわだ」と入力すれば、カンタンです)